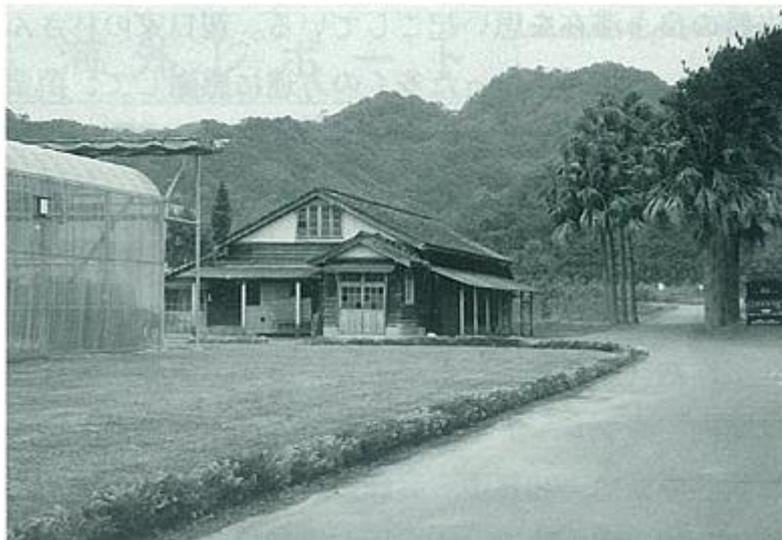




蚕糸試験場台湾飼育所
台湾新竹州大湖郡大湖庄
昭和9年12月

昭和9年3月、原蚕種管理法交付により原蚕種製造配布事業が著しく拡大することとなり、同年12月蚕業試験場官制の改正で明石支場、宮崎支場、福島支場新庄出張所、福島支場飯坂出張所および台湾飼育所が設置された。



台湾飼育所跡地
台湾苗栗区蚕蜂改良場大湖飼育所→苗栗区農業改良場（公館）の支所
台湾・苗栗県大湖郷
平成9年（1997）11月撮影

台湾飼育所は沖縄飼育所とともに昭和20年8月廃止された。現在、跡地は台湾省苗栗県農業改良場（公館）の支所となっている模様。

苗栗県大湖郷たいこきょうは台北市と台中市のほぼ中間に位置した緑の山に囲まれた自然に満ちた山地。苺の産地としても知られ、沿道には間もなく収穫の始まる露地栽培の苺畑が一面に続く。ここは戦前の農林省蚕糸試験場大湖飼育所(台湾飼育所)で、現在でも蚕糸試験

場時代の建物が何棟か残っています。

日本時代を知っている人は皆、退職してしまっておられるとのことでしたが、私たちが日本人であることがわかると、職員の方々に笑顔で、温かく迎えてもらい大感激。現在は台湾苗栗県蚕蜂改良場分場の大湖原蚕飼育所として、原蚕飼育や系統維持を行なっているところで、昔の名残のある飼育施設などを見せてもらいました。



蚕蜂改良場入口にある門塀絵
台湾・苗栗県公館郷南村

大湖郷と隣の苗栗県公館郷にある蚕蜂改良場は台湾省政府農林庁に組織された養蚕と養蜂に関する試験研究を行う唯一の試験場。その主要な研究任務は案内パンフレットから抜粋すると、(1)蚕育種、桑、蜂新品種繁殖、(2)養蚕、養蜂の新技术開発、(3)蚕・桑・蜂の病気と害虫防除、(4)蚕種、蜂製品の保存、(5)家蚕、蜜蜂品種の育成、(6)蚕、蜂製品の加工試験、(7)生物防除、(8)蜂類授粉技術、(9)蚕蜂業教育。蚕糸試験場病理部の高橋幸吉さんと製糸部の井上和也さんが、かつてここで技術指導されていたと聞いている。その証として見学中に井上和也さんの写真が場内に飾ってあるのを見ました。



台湾省苗栗県・蚕蜂改良場

(最左側) 林洋三さん (最左側から二人目) 農業会重鎮 楊木霖さん

楊木霖さんの桑畑

大胡高級職業学校の主任をしていたが、定年前に辞職し、その後自分で蚕種製造や品種育成のかたわら、天蚕に興味をもち、青年の意気で取り組んでおられる。飼育用の蚕室や餌となるナラの畑を見せてもらった。これは北大から送られたミズナラやコナラの挿し穂やドングリから育てたもので、見事に生長している。

また揚氏は長年にわたる教師生活で教え子も多く、蚕蜂改良場の研究員のほとんど全員が揚氏の指導を受けたというほど、この苗栗県公館郷、大湖郷地方での農業界の重鎮（ビックなお方、ボス）でもある。台湾蚕蜂公司台中指導所主任等の要職にある。

付則1.

蚕蜂改良場には蚕と蜂に関する豊富な資料と立派なパネルを展示している室がいくつかありました。さらに現在、大きな独立の立派な蚕糸博物館も建設整備中で、近く機構改革で蚕蜂改良場から農業改良場に名称が変更になるので、この機会に台湾蚕糸の記念として博物館を残すという。計画によると、博物館（正式には台湾蚕業文化館という名称になった模様）には煮繭機、繰糸機、精練装置、染色機械、加工機などを移して展示保存していくとのこと、日本同様に蚕糸情勢のきびしい台湾蚕糸絹業下で養蚕用具や絹業機械をスクラップするのではなく、一堂に展示保存して、広く人々に、子どもたちに伝えていこうとする考えにお国の豊かさ、人々の心のゆとりを感じました。自国の農産業、経済あるいは生

物、動植物資源などを研究、保存、教育のために大切に守っていこうとする態度に印象を強く持ちました。これらの展示や博物館建設をみて、世界に名を馳せた日本蚕糸業の興廃を後世に示す計画はあるだろうか。

付則2.

蚕蜂改良場は1998年1月から台湾省苗栗區農業改良場と改称されました。蚕、蜂に新たに、米、果樹、花きを加えた5品目の農産物に関する試験研究と技術普及を行うことになったそうです。林洋三氏が蚕糸博物館長兼農業改良場農業推廣中心主任（普及センター長）に予定されている。

台湾省苗栗區農業改良場ホームページ→<http://mdares.coa.gov.tw/welcome.php>

<http://mdares.coa.gov.tw/view.php?catid=10>

付記

1997年11月16-22日、台湾の台中市で開かれた第3回アジア太平洋国際昆虫学会議（APCE3）のなかで、国際野蚕シンポジウムが開催された。それに参加した折に台湾省蚕蜂改良場を訪ねた。この改良場の案内は、北大の中田徹先生がご家族ぐるみで懇意にしておられる蚕蜂改良場秘書の林洋三さんや揚木霖さんに、この機会に苗栗県一帯の養蚕状況の視察をお願いしていただいたことによる。同行者は北大の中田徹先生と斉藤寛先生をはじめ、野蚕学会メンバーの赤井弘会長、奥井一満先生、栗林茂治さん、加藤の6名。